

昔から人気を集めてきたハイキングコース
巢雲山コース 約5時間00分

のどかなみかん畑のゆったりコース
みかんの花咲く丘コース
峰コース 約3時間00分
阿原田コース 約2時間30分

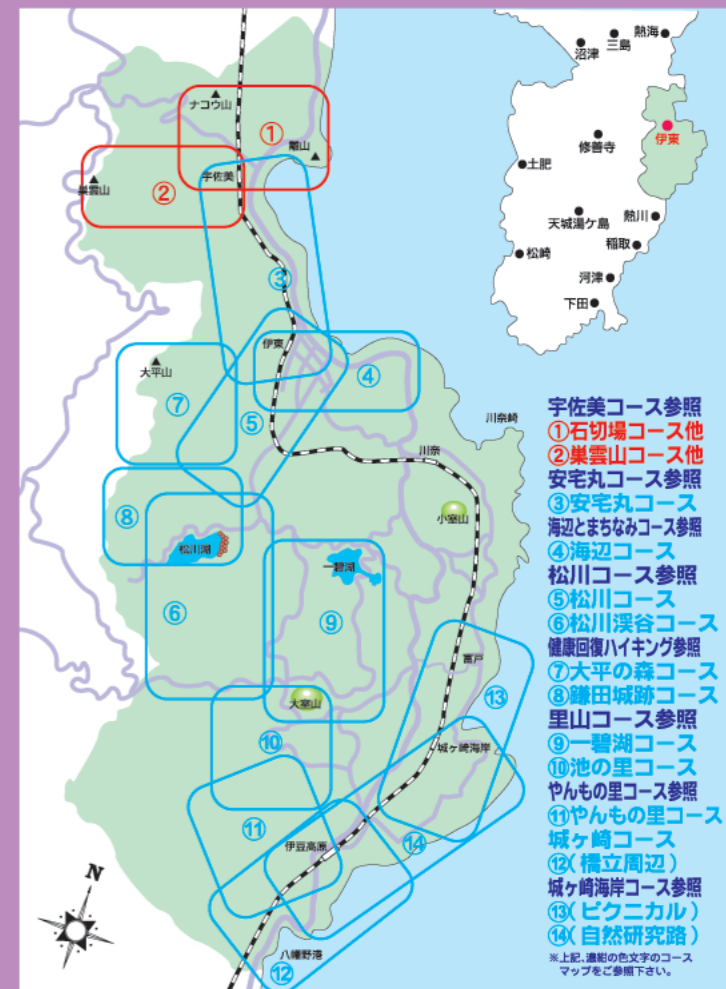
宇佐美の歴史ある神社をめぐるコース
鎮守の森コース
約3時間00分



宇佐美コース
石切場コース (ナコウ山・洞入・麓山・白波台)
旧街道コース
巢雲山コース
みかんの花咲く丘コース
鎮守の森コース

伊東市健康保養地づくり実行委員会
協力 宇佐美区・宇佐美観光会・まち研 他

ゆったり湯めまちウォークコースエリア



- 宇佐美コース参照
- ①石切場コース他
 - ②巢雲山コース他
 - ③安宅丸コース参照
 - ④海辺コース参照
 - ⑤松川コース参照
 - ⑥松川渓谷コース参照
 - ⑦大平の森コース参照
 - ⑧鎌田城跡コース参照
 - ⑨一響湖コース参照
 - ⑩池の里コース参照
 - ⑪やんもの里コース参照
 - ⑫城ヶ崎コース参照
 - ⑬(橋立周辺)
 - ⑭(ピクニック)
 - ⑮(自然研究路)
- ※上記コースの色文字のコースマップをご参照下さい。



みかんの花咲く丘
加藤省吾 作詞 海沼実 作曲

みかんの花が咲いている
思い出の道 丘の道
はるかに見える 青い海
お船がとくく 霞んでる
黒い煙を はきながら
お船はどこへ 行くのでしょうか
波に揺られて 鳥のかけ
汽笛がぼうと 鳴りました
何時か来た丘 母さんと
一緒に眺めた あの島よ
今日もひとりで 見ていると
やさしい母さん 思われる

終戦直後の昭和21年8月24日に加藤省吾氏により作詞され、翌日「空の劇場」というNHKのラジオの番組で当時人気があった川田正子さんが伊東からの中継で歌うことになりました。(その伊東に向かう電車の中で海沼実氏が作曲をしました。)
この歌は全国で愛唱されることになり、それを記念して歌碑が宇佐美に建てられています。

みかんの花
※みかんの花は5月上旬～中旬頃に咲いています。

巢雲山は宇佐美っ子のなつかしい遠足コースでした。巢雲山が遠足の目的地になったのは、いつの頃なのかさだかではありませんが、宇佐美っ子の誰もが一度は登ったことのある山が巢雲山です。遠足のその日、航空用の鉄塔のあった山頂にはいつも歓声がこだまし、子供たちは手作りの芝ソりで、日が暮れるまで山頂で遊んでいました。(宇佐美中創立50周年記念写真集より)

鎮守の森コース
中村敬字碑
中村敬字先生は、明治の啓蒙思想家で、スマイルズの「自助論」を翻訳した「西国立志編」は当時のベストセラー。先生の父が宇佐美出身ということから碑が建てられました。揮毫は川端康成。

城山(宇佐美城址)
頼朝25功臣の一人、宇佐美祐茂公の居城跡と言われている。「宇佐美」姓発生の地である。



みかん畑
みかんの花咲く丘(阿原田)コース
みかん畑とお茶畑が一面に広がっています。



巢雲山は、昔はヒバリがいるような所で、茅場として使われていました。巢雲山の西にある長者ヶ原の富農が稲のモミガラをここにたくさん捨て、それが積み重なって、山になったと伝えられています。巢雲山は標高580.5メートルの低い山ですが、山頂からの富士山の眺めは最高です。



山頂の景色



伊豆スカイラインは自動車専用道路です。歩行は危険ですので、おやめください。
阿原田峠
伊豆スカイライン
至龜石峠
巢雲のアイス
巢雲の大石
大丸山展望台
大丸山からの眺望
沢ガニが横切りします。
炭焼小屋
天乙平別荘地
馬頭観音像
馬頭観音像
花岳院
芝原公園
宮川
宇佐美海水浴場
宇佐美の浜
中村敬字碑
仲川
宇佐美海水浴場
宇佐美の浜
大刻印石
城山
比波預天神社(裏面に説明)

「旧街道」(東浦路・東浦筋)

この旧街道は、鎌倉時代から小田原で東海道から別れ、下田までの重要な街道であった。このうち中央区立宇佐美学園裏側から網代岬の茶屋までの約4kmは、最も自然が残っている区間です。

江戸時代に書かれた 宇佐美旧街道日記

宇佐美から網代

宇佐美村、砂利浜を歩き、村里に至りて、左の方に春日の社あるを歩き、御船を造らしめ給うころ伐りたりけむ楠なむ有りける。伐りたし木の幹は十二人してかかゆといえり。行く手の左に、鎮守八幡宮と額打ちたる石の鳥居あり。村長半三郎の家に休らいて、ゆききの道の松の葉越に、海の面をながむれば、左は真鶴崎、右は川奈崎を限

り。磯打つ波の景色ことさらによし。庭に大なる蘇鉄のあまた枝ぶりたるあり。所望したけれども、持てきたる木とていなみつ。又山越えなり。この所海見す。岬を網代岬という。ここよりして網代村の境なり。岬よりは海望よろし。乾の方壘嶺の上に、富士の嶺二合目より上見ゆ。右には天城山きのうの雪、未だ消えず見ゆる。

浦賀奉行小笠原長保「甲申旅日記」
※安宅丸とは三代將軍家光が伊東でつくらせた巨大船。その材木に宇佐美・春日神社の大楠がつかわれた。

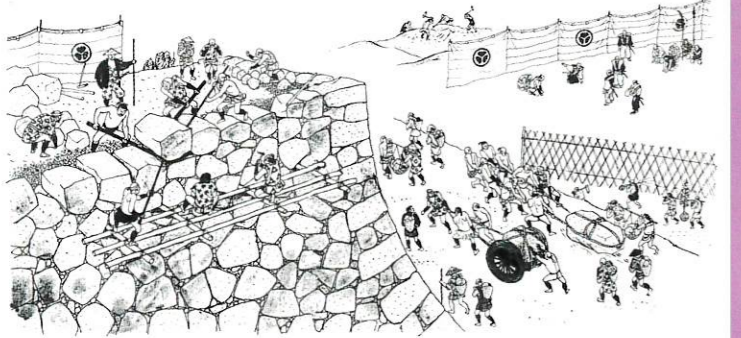


旧街道を歩いてみよう！
昔の雰囲気をもっと楽しむことができます。

家康・秀忠・家光と三代にわたる江戸城築城石の切り出しの大部分は伊東から

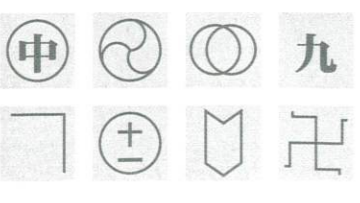
家康が江戸へ入った頃の城は、貧弱なものであったが、関ヶ原の戦いに勝って江戸が天下の中心となるにつれて、家康はここを壮大な城につくりかえた。その基礎となる石垣用の石の大部分は、伊豆から運ばせた。慶長10年(1605)から始まる30数年の間に、何回にもわたって全国の大名に命じて石を切り出させた。伊東はその中心的な場所にあたるので、いたる所に大名の石丁場(石の切り出しを行う場所)が置かれ、村の人

口の数倍にもあたる作業員が来ていた村もあった。多い時には、3,000艘もの船が、月に2度ずつ江戸と伊豆の間を往復したといわれ、伊東の村々にも大きな影響があったと思われるが、具体的な内容については、よくわかっていない。現在の皇居(昔の江戸城のあと)の石垣の中にはこうして伊東から運ばれた石がたくさん入っている。



こくいんせき 刻印石とは

採石された石には「刻印」が刻まれ付けられることが多く、この刻印が助役大名を決める決め手として重要である。「刻印」を「石垣にノミで刻んだしるし」で「刻印石」と称する。



(丸に一) これは前田家もしくは細川家と推定。
(丸に十) 島津家の家紋であり、大阪城でも島津忠興の印。佐土原藩島津家の可能性が高い。
(丸に九) 伊豆地区の石丁場調査では加賀前田家が九曜を使っている。細川家のものである公算が強い。

通称「クズレ」街道左下は、江戸城修築の時の石切場であり、雨の流れやすい所でもあったため、ここを「クズレ」と昔から呼んでいる。
宇佐美の石切り場で発見された刻印。あなたはいくつ発見できるかな！

重要な歴史文化遺産

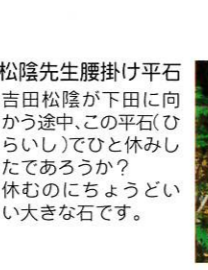
『羽柴越中守石場』の大標石
ナコウ山石切場には、「羽柴越中守石場」と刻まれた大標石が現存している。羽柴越中守とは、豊田家から羽柴姓を受けた「細川忠興」公のことである。忠興公の夫人は熱心な切支丹信者の「細川ガラシャ」で、この石切場付近には、当時としてはめずらしい「T(ティー)」の字の刻印石も残されている。



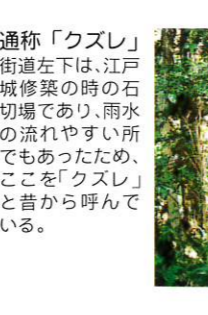
至網代
網代岬
●大島茶屋跡



岬の馬頭観音
もう少しで岬というところにある。台座に道標が彫られ「村内安全」とある。寛政九丁巳年(1797)と刻まれてある。



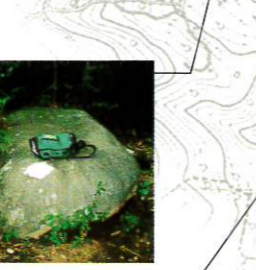
松陰先生腰掛け平石
吉田松陰が下田に向かう途中、この平石(ひらいし)でひと休みしたであろうか？休むのにちょうどいい大きな石です。



おいしがさわ 御石ヶ沢



滝コース



ユーカリの林
パルプ材の不足を補うため、生育の早いユーカリをこの山一帯に植えて、パルプ材にした名残が現在も残っている。



ナコウ山352.7m



石切場(洞入)コース



さまざまな石を発見できます



石切場(白波台)コース



石切場(離山)コース



比波預天神社(式内社)
宇佐美で一番古く千年以上昔からある神社です。風神(神社境内) 神社拝殿の右側、小さな祠内に、右・風神、左・山の神、宇佐美地内で風神が祀られているのはここだけ。ホルトの木 静岡県指定天然記念物(神社境内)



御石ヶ沢
御石ヶ沢隧道から網代にかけての地域を御石ヶ沢と呼ばれている。それは將軍様の御用石、すなわち「御石」が運び出された場所だから「御石ヶ沢」と呼ばれた。質のよい石が豊富にあること、海上輸送できる物理的な条件などから、主たる採石地として伊豆が選ばれ、各大名は、競ってここに石丁場(石切場)を設け、それぞれの紋等を刻んだ「刻印石」が今も数多く残っている。



ナコウ山
この山の語源は不詳、この山奥で働いた石工達は、毎日の石切作業も重労働であり、妻子のある者も、年老いた親のある者も、故郷を思ひ泣き泣きお互いに作業に励み、「泣こうではないか」と言ったのが、この山の名の起りではないかという説もある。

離山
伊東における採石大名は十四家、石丁場55箇所、刻印を有する石材950個を確認したと言われている。離山もその一つ。山頂付近に石切り場跡がある。

石切場(白波台)コース
かなり急な下り坂が続きます。滑らないように、ゆっくり歩こう。

石切場(洞入)コース
砂防ダム

石切場(離山)コース
展望台初鳥が目

石切場(白波台)コース
白波台別荘地

石切場(離山)コース
離山の刻印石

日本の歴史遺産「江戸城石切場遺跡」

石切場コース

ナコウ山～離山コース 約4時間30分
ナコウ山～白波台コース 約3時間30分
ナコウ山～洞入コース 約3時間00分

頼朝公のががれ、松陰先生が走った歴史街道

旧街道コース

約4時間00分



竹林の道がつつきます



宇佐美の浜
昔宇佐美の浜に神様が上陸した時「何という美しい砂浜じゃ」とおっしゃったことから「うさみ」という名がついたという言い伝えがあります。

※ナコウ山・離山・奥雲山どのコースも山道です。トレッキングシューズ等が必要です。タバコの火の始末や、ゴミの持ち帰りもご協力をお願いします。コースから離れずに歩きましょう。